

あかいわの大地の成り立ち

⑦ 砂川



花崗岩由来の「砂」の川

赤磐市南西部(赤坂地域～山陽地域)には、砂川とその支流によって作られた平野と丘陵が発達しています。砂川は、仁堀東の竜天山麓を源流とし、市内を北から南へ向かって貫流して、岡山市東区で百間川に合流する長さ約40kmの一級河川です。砂川には周囲の花崗岩から流されてきた大量の砂が堆積しています。花崗岩は墓石や建築材に使われるぐらい硬くてしっかりした岩石ですが、長い時間、雨や風などにさらされると、少しずつ鉱物が分離して砂のように崩れていきます。これをマサ(真砂)と呼んでいます。砂川の一部はマサが厚く堆積し、川床の高さが周囲の平野より高くなっているところがあります(天井川)。砂川に堆積したマサは良質な庭砂となることから、かつては皇室へ税として納められていたこともありました。



砂川がつくる平野と丘陵(写真右が北)



ジオポイント

「白桃とパスクラサン」

マサは直径1mm前後の石英や斜長石と呼ばれる鉱物の集合体です。さらさらで水を通しやすいため、果樹の栽培に適しています。山陽地域の鴨前および西中は白桃の一大産地として知られ、環境省の「かおり風景100選」に選ばれています。また、地中海沿岸を原産地とするパスクラサンは、赤坂地域の由津里が国内唯一の生産地です。ゴツゴツした見た目と裏腹に、追熟後の香りと甘みは豊潤そのものです。赤磐市を代表する果物(白桃やパスクラサンなど)は、砂川流域の良質なマサに育まれているのです。



もっと知りたくなった人は、地球史研究所の先生に聞いてみよう!

▶地球史研究所 ☎956-3538 (※外出中で不在のときもあります)

●問い合わせ先 / 本庁政策推進課 ☎955-2692

